

研究・研修報告書



令和8年3月3日

小牧市議会議長 様

会派名 無会派  
代表者氏名 大上利幸

研究・研修の結果を報告します。

記

1 参加議員

大上利幸

2 日程

令和8年2月20日（金）

3 研究・研修名

「質問力」で勝つ議会戦略セミナー  
計画も財政も使える質問に変える  
新人からベテランまで質問力を実装できるセミナー

4 主催者

地方議員研究会

5 会場

リファレンス西新宿大京ビル

6 受講の目的

議会での質問力向上のため

7 主な内容

10:00～12:30

議員になったら確認したい

役所の計画の見方と質疑の組み立て方

- ・「その計画書、何のためにあるの？」まずは全体像をつかもう
- ・いま見たい各種計画と内容のおさらい
- ・読み飛ばされがちな数値目標に注目せよ！
- ・理想論で終わらせない質問をつくるには？

- ・ 行政が嫌がるのは評価と予算の接続質問！
- ・ PDCA はどこで回っている？チェックすべき成果指標のツボ
- ・ 「それって本当に住民の声？」と問い返せる視点
- ・ 計画の言葉づかいに込められた本音を読み取る方法

13：30～16：00

議員になったら確認したい役所の財政の  
見方と質疑の組み立て方

- ・ 「財政はよくわからない」その壁、今日こえてみませんか？
- ・ 自治体財政はまずはここだけ見れば OK！
- ・ 新人議員の 9 割が聞かない、使われなかった予算の話
- ・ 財務指標などの比較は質問のタネの宝庫
- ・ 前年度と比べるだけの質問はもう卒業しよう
- ・ 補助金・委託費・積立金 グレーゾーンを突く着眼点
- ・ 「財政が厳しい」ってホント？職員が言いたくない数字とは
- ・ 質疑の追い詰め方と、事例から学ぶ組み立て

## 8 所感・提言・課題等

前半の「役所の計画の見方と質疑の組み立て方」に関しては議会での質問において、議員は市民の声や信念で動くが、行政は法令・行政計画・予算で動くため、認識のズレがないように共通言語で質問・質疑することが必要であり、特に行政計画の最上位の総合計画とその下の分野別の計画（小牧市ではまちづくり推進計画と都市ビジョン・市政戦略編・分野別計画編・自治体経営編）が重要である説明であった。

自治体業務・行政評価は P D C A サイクルでまわっているため、どのステージで何を指摘すると効果的かを考えて質問を行う。

P（計画）である総合計画（基本構想）を頂点とする各分野の行政計画では、自治体の計画知りその妥当性を検証する。

D（実行）である計画に基づく施策の実施では、現場を目視確認する。

C（評価）である行政評価の実施では、評価手法は妥当か、お手盛りになってないか、数値や指標の「前提」を疑うことが重要で政策の成果を客観的に検証する必要がある。

A（改善）である行政評価の結果・予算編成方針・決算審査では、自らの行政評価と新年度予算に矛盾がないのかや改善した形跡のない前年度踏

襲の予算を決算審査・予算審査・一般質問で論理的に指摘する。

後半の「役所の財政の見方と質疑の組み立て方」では、基本的な説明が多く新人向けの内容でしたが、株式会社と自治体の赤字・黒字の違いの説明はとても参考になった。

このPDCAのどのステージで内を指摘すると効果的かに関しては、とても勉強になったので次回の質疑や一般質問で生かしたいと考える。